

教科・種目名 社会(地理的分野)		
採択基準	基本観点	発 行 者 名
		2 東 書
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	学習指導要領に示す目標に従い世界や日本の地理的認識を養う内容を豊富な資料を用いて取り上げている。 巻頭・第1篇・第2編第1章・巻末で世界・日本を大観する写真・地図を取り上げている。第2編第2章では世界の各州ごと、第3編第3章では日本の各地方ごとの地域的特色を示す地図を取り上げている。第3編第1章では地域の調査として、7段階の手法で日本の1都市を例に取り上げている。 導入として、単元全体を貫く問いかけを設けている。展開として、学習課題を明記し、学習を深めるための作業や活動場面を設け、興味を引く話を紹介している。まとめとして、その時間に学習した内容を確認したり、さらに深めたりする課題を設けている。 第1編から第3編では、各章や節ごとに学習した内容について基礎的・基本的な知識や技能の確認をしている。また、まとめの活動として、単元を貫く探究課題の解決にむけた内容を設け、対話的な学びや言語活動の充実を図れるようにしている。
	別表1	

発 行 者 名		
17 教出	46 帝国	116 日文
学習指導要領に示す目標に従い世界や日本の地理的認識を養う内容を豊富な資料を用いて取り上げている。 第1編・第2編第1章・折り込みページで世界・日本を大観する地図・写真を取り上げている。第2編第2章では世界の各州ごと、第3編第3章では日本の各地方ごとの地域的特色を示す写真を取り上げている。第3編第1章では地域の調査として日本の1都市を例に取り上げている。 導入として、学習のきっかけとなる資料を解説文とともに紹介している。展開として、学習課題を明記し、用語の説明を側注で表記し、資料を読み取ったり、考えを深めたりする作業・活動場面を設けている。まとめとして、その時間に学習した内容を確認し、学習した内容を活用して表現する課題を設けている。 第2編第1章、第2編・第3編各第2章、第3編第3章では、章のまとめや各州・各地方ごとに学習した内容の振り返りのページを設け、対話的な学びや言語活動の充実を図れるようにしている。	学習指導要領に示す目標に従い世界や日本の地理的認識を養う内容を豊富な資料を用いて取り上げている。 第1部で世界・日本を大観する写真・地図を取り上げている。第2部第2章で世界の各州ごと、第3部第3章で日本の各地方ごとの地図を用いて注目するテーマ・視点を取り上げている。第3部第1章では地域の調査として日本の1都市を例に取り上げている。 導入として、単元を貫く問いかけを設けている。展開として、学習課題を明記し、資料に関する問いかけや補足説明、用語の解説を設けている。まとめとして、各本文ページに確認したり説明したりする課題を設けている。 第1部・第2部・第3部の各章・節の末尾に、章・節の学習内容の振り返りのページを設け、対話的な学びや言語活動の充実を図れるようにしている。	学習指導要領に示す目標に従い世界や日本の地理的認識を養う内容を豊富な資料を用いて取り上げている。 第1編で世界・日本を大観する写真・地図を取り上げている。第2編第2章で世界の各州ごと、第3編第3章で日本の各地方ごとの地理的特色を示す写真を取り上げている。第3編第1章では地域の調査として日本の1都市を例に取り上げている。 導入として、資料に関する問いかけを設けている。展開として、学習課題を明記し、資料の読み取りや読み取ったことをもとに考えたり表現したりする活動と学習内容を深めるための作業場面を設けている。まとめとして、学習内容について理解を確認したり、学習内容を活用して考えを深めたりする問いかけを設けている。 第2編第2章・第3編第3章の各節の末尾、各章の末尾に、学習した内容の振り返りのページを設け、対話的な学びや言語活動の充実を図れるようにしている。

採択基準	基本観点	発 行 者 名
		2 東 書
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るための配慮	地球儀や世界地図を効果的に活用し、世界と日本の地域構成を大観させ、基礎的な知識・技能を身に付けさせる内容を取り上げている。 世界と日本の諸地域に関する学習は諸地域の地域的特色について適切な主題を設定し、各地域に暮らす人々の生活の様子が把握できる図や写真を取り上げている。 本文の学習内容を補充し関連知識を習得するコラム「地理にアクセス」を43箇所、地理的技能を習得する「スキルアップ」を32箇所、それを活用する「集める」「読み取る」「まとめる」のコーナーを83箇所記載している。 章末や地域の学習の後に学習のまとめとして振り返りの活動を設定している。
	(2) 思考力・判断力・表現力等の育成を図るための配慮	言語活動の充実を図る工夫として、「チェック」「トライ」を設けている。 地理的事象を多面的・多角的にとらえる工夫として、「地理にアクセス」と「もっと地理」を設けている。地理的な見方・考え方を活用して取り組む場面に「見方・考え方」のマークを設けている。 地域の調査事例では、高知県高知市を取り上げている。まとめ方として図や地図、表形式を例示している。また、「地域の在り方」として宮崎市を取り上げ、6段階で課題発見から発表までを例示している。 基礎的基本的な知識を整理する「基礎・基本のまとめ」と地理的な見方・考え方に取り組む「まとめの活動」のページを設けている。

別表2

別表3

発 行 者 名		
17 教出	46 帝国	116 日文
地球儀や世界地図を効果的に活用し、世界と日本の地域構成を大観させ、基礎的な知識・技能を身に付けさせる内容を取り上げている。 世界と日本の諸地域に関する学習は、諸地域の地域的特色について適切な主題を設定し、各地域に暮らす人々の生活の様子が把握できる図や写真を取り上げている。 地理の基礎的知識を確認する「地理の学習を始めるにあたって」「地理にアプローチ」を冒頭に掲載している。基本的な地理的技能を身につける工夫として「地理の技」のコーナーを8箇所設けている。 章末や地域の学習の後に学習のまとめとして振り返りの活動を設定している。	地球儀や世界地図を効果的に活用し、世界と日本の地域構成を大観させ、基礎的な知識・技能を身に付けさせる内容を取り上げている。 世界と日本の諸地域に関する学習は、諸地域の地域的特色について適切な主題を設定し、各地域に暮らす人々の生活の様子が把握できる図や写真を取り上げている。 地域の基礎的技能を習得するコラム「技能をみがく」を23項目、学習内容に関連した事例「地理プラス」を37項目記載している。 章末や地域の学習の後に学習のまとめとして振り返りの活動を設定している。	地球儀や世界地図を効果的に活用し、世界と日本の地域構成を大観させ、基礎的な知識・技能を身に付けさせる内容を取り上げている。 世界と日本の諸地域に関する学習は、諸地域の地域的特色について適切な主題を設定し、各地域に暮らす人々の生活の様子が把握できる図や写真を取り上げている。 地理の基礎的技能を習得するコラム「スキルUP」を31項目記載している。 章末や地域の学習の後に学習のまとめとして振り返りの活動を設定している。
言語活動の充実を図る工夫として、「確認」「表現」を設けている。 地理的事象を多面的・多角的にとらえる工夫として、「地理の窓」と「地域から世界を考えよう」「現代日本の課題を考えよう」を設けている。 地域の調査事例では、愛知県名古屋市を取り上げている。まとめ方として、イラストマップ形式を例示している。 調査活動を進める上での基礎的な技能を身に付ける「地域調査の手引き」を設けている。また、「地域のあり方」として農村・都市などに見られる課題を発見し、解決への提案を示している。	言語活動の充実を図る工夫として、「確認しよう」と「説明しよう」を設けている。 地理的事象を多面的・多角的にとらえる工夫として、巻頭7において5つの視点を示し、「学習の始めに」で説明している。 地域の調査事例では、東京都練馬区を取り上げている。まとめ方として、レポートの形式を例示している。また、「地域の在り方」として京都市を取り上げ、5段階で課題発見から発表までを例示している。 調査学習を進める上での基礎的な技能を身に付ける「技能をみがく」コラムを設けている。	言語活動の充実を図る工夫として、「深めよう」と「確認」を設けている。 地理的事象を多面的・多角的にとらえる工夫として「地理＋α」「自由研究」「声コーナー」を設けている。 地域の調査事例では、京都市伏見区を取り上げている。まとめ方として、レポートや壁新聞の形式を例示している。 調査学習を進める上での基礎的な技能を身に付ける「スキルUP」コーナーを設けている。

教科・種目名 社会(地理的分野)		
採択基準	基本観点	発 行 者 名
		2 東 書
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(3) 生徒が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	「この教科書の使い方と学び方」で編・章の構成と学び方、本文ページの構成と学び方を説明している。 本文のページでは「学習課題」・「チェック&トライ」を設けている。 各章末ごとに学習した内容を確認・整理するための「この章の学習を確認しよう」と州・地方ごとに「まとめの活動」のページを設け、「みんなでチャレンジ」の印をつけた課題を例示している。学習内容を理解し、話し合いなどの対話的な活動を通じて学習を深める工夫をしている。
	(4) 学習指導要領に示していない内容の取扱い	高等学校の学習内容と関連を示す印や「発展」などの記載はない。
	(5) 他の教科等との関連	歴史的分野との関連のある内容に印などをつけて17箇所取り上げている。 公民的分野との関連のある内容に印などをつけて35箇所取り上げている。 数学、理科、技術、保健体育、特別の教科 道徳などの教科と関連のある内容に印をつけて10箇所取り上げている。 巻頭に人権・平和、環境・エネルギー、伝統・文化、情報・技術、防災・安全の概要を示し、学習に関連のある内容に印などをつけて、36箇所取り上げている。 男女共同参画社会の追究への配慮を示す印などはない。

発 行 者 名		
17 教出	46 帝国	116 日文
「教科書の使い方」で本文ページの見方・使い方を説明している。 本文のページでは「学習課題」・「確認」・「表現」を設けている。さらに、各章末ごとに学習した内容を確認・整理するための「学習のまとめと表現」のページを設けている。	「この教科書の学習の仕方」で学習の見通し・振り返りの流れ、本文ページの学習のしかたを説明している。 本文のページでは「学習課題」・「確認しよう」・「説明しよう」を設けている。さらに、各章・節ごとに学習した内容を確認・整理するための「学習を振り返ろう」のページを設けている。	「教科書の構成と使い方」で教科書全体の学習の流れや基本構成について説明している。 本文のページでは「学習課題」・「深めよう」・「確認」を設けている。さらに、第2編第2章、第3編第3章の末尾には学習した内容を確認・整理するための「学習のまとめ」のページを設けている。
高等学校の学習内容と関連を示す印や「発展」などの記載はない。	高等学校の学習内容と関連を示す印や「発展」などの記載はない。	高等学校の学習内容と関連を示す印や「発展」などの記載はない。
歴史的分野との関連のある内容に印などをつけて15箇所取り上げている。	歴史的分野との関連のある内容を示し、44箇所取り上げている。	歴史的分野との関連のある内容を示し、8箇所取り上げている。
公民的分野との関連のある内容に印などをつけて17箇所取り上げている。	公民的分野との関連のある内容を示し、20箇所取り上げている。	公民的分野との関連のある内容を示し、4箇所取り上げている。
特別の教科 道徳との関連を示す印などはない。	特別の教科 道徳との関連を示す印などはない。	特別の教科 道徳との関連を示す印などはない。
巻頭にSDGsの概要を示し、第2編第2章世界の各州の学習のまとめとして関連のある課題を取り上げている。	巻頭にSDGsの概要を示し、関連のある内容に印をつけて25テーマを取り上げている。	人権、環境問題・環境保全、資源・エネルギー、平和・命の尊さ、防災・減災、伝統と文化に関係のある内容を本文や「地理＋α」で取り上げている。
男女共同参画社会の追究への配慮を示す印などはない。	男女共同参画社会の追究への配慮を示す印などはない。	男女共同参画社会の追究への配慮を示す印などはない。

教科・種目名 社会(地理的分野)		
採択基準	基本観点	発 行 者 名
		2 東 書
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫	総ページ数は295ページで、AB判である。 ユニバーサルデザインに向けた工夫については、読みやすい書体、文字の大きさ、図表となっている。 写真やグラフなどの資料に解説を記載しているものもあり、本文中に参照する番号を表記している。 巻末に、世界の国別・日本の都道府県別統計資料・グラフを色つきで記載している。用語解説のページを設けている。 ICTを活用した学習内容に印をつけて取り上げており、二次元コードやURLが示されている。
		別表7

発 行 者 名		
17 教出	46 帝国	116 日 文
総ページ数は295ページで、AB判である。 ユニバーサルデザインに向けた工夫については、読みやすい書体、文字の大きさ、図表となっている。 写真やグラフなどの資料に解説を記載しているものもあり、本文中に参照する番号を表記している。 巻末に、世界の国別・日本の都道府県別統計資料・グラフを色つきで記載している。用語解説のページを設けている。また、各所に側注を設けている。 学習に役立つ情報を閲覧できる二次元コードやURLが示されている。	総ページ数は300ページで、AB判である。 ユニバーサルデザインに向けた工夫については、読みやすい書体、文字の大きさ、図表となっている。 写真やグラフなどの資料に解説を記載しているものもあり、本文中に参照する番号を表記している。 世界の国別・日本の都道府県別統計資料・グラフの記載はない。本文の欄外に「解説」と明記し、用語解説52項目記載している。 本文中に動画が視聴できる二次元コードを設けている。	総ページ数は287ページで、AB判である。 ユニバーサルデザインに向けた工夫については、読みやすい書体、文字の大きさ、図表になっている。 写真やグラフなどの資料に解説を記載しているものもあり、本文中に参照する番号を表記している。 世界の国別・日本の都道府県別統計資料を記載している。用語解説のページを巻末に設けている。 本文中の資料にデジタルマークがあり関連ウェブページからデジタル資料が視聴できる。

教科・種目名 社会(地理的分野) 調査研究事項

別表1

調査項目		2 東書
世界の様々な地域	総ページ数	121 ページ(第1編第1章・第2編)
	単元別ページ数	◇第1編 世界と日本の姿(導入)…2 ページ ◇第1章 世界の姿…12 ページ 第2編 世界のさまざまな地域 ◇第1章 世界各地の人々の生活と環境…21 ページ ◇第2章 世界の諸地域…86 ページ
日本の様々な地域	総ページ数	155 ページ(第1編第2章・第3編)
	単元別ページ数	第1編 世界と日本の姿 ◇第2章 日本の姿…13 ページ 第3編 日本のさまざまな地域 ◇第1章 地域調査の手法…16 ページ ◇第2章 日本の地域的特色と地域区分…27 ページ ◇第3章 日本の諸地域…87 ページ ◇第4章 地域の在り方…12 ページ
全体の構成	単元の導入	【第1編】(第1章と第2章の導入) ◇「世界と日本の姿」のページを設け、宇宙から見た大陸と海洋、および日本の領土(海・島々)を示した写真と地図を上げている。 ◇「導入の活動」として、「世界の国・日本の都道府県クイズをつくろう」のページを設け、3つの国と都道府県のそれぞれの建物や自然の風景、名物(中国:万里の長城・アメリカ:グランドキャニオン、サウジアラビア:聖地メッカ、愛知県:輪中地帯、沖縄県:さとうきび畑、北海道:雪祭り)の写真を上げている。

17 教出	46 帝国	116 日文
112 ページ(第1編第1章・第2編)	114 ページ(第1部第1章・第2部)	106 ページ(第1編第1章・第2編)
◇ 第1編 世界と日本の地域構成(導入)…1 ページ ◇ 第1章 世界の地域構成…10 ページ 第2編 世界のさまざまな地域 ◇第1章 人々の生活と環境…19 ページ ◇第2章 世界の諸地域…82 ページ	第1部 世界と日本の地域構成 ◇第1章 世界の姿…12 ページ 第2部 世界のさまざまな地域 ◇第1章 人々の生活と環境…19 ページ ◇第2章 世界の諸地域…83 ページ	◇第1編 世界と日本の地域構成(導入)…1 ページ ◇第1章 世界の地域構成…10 ページ 第2編 世界のさまざまな地域 ◇第1章 世界各地の人々の生活と環境…20 ページ ◇第2章 世界の諸地域…75 ページ
157 ページ(第1編第2章・第3編)	177 ページ(第1部第2章・第3部・第4部)	167 ページ(第1編第2章・第3編)
第1編 世界と日本の地域構成 ◇第2章 日本の地域構成…8 ページ 第3編 日本のさまざまな地域 ◇第1章 地域調査の方法を学ぼう…14 ページ ◇第2章 日本の特色と地域区分…26 ページ ◇第3章 日本の諸地域…101 ページ ◇第4章 地域の在り方…8 ページ	第1部世界と日本の地域構成 ◇第2章 日本の姿…12 ページ 第3部 日本のさまざまな地域 ◇第1章 身近な地域の調査…12 ページ ◇第2章 日本の地域的特色…28 ページ ◇第3章 日本の諸地域…114 ページ ◇第4部 地域の在り方(導入)…1 ページ ◇第1章…10 ページ	第1編 世界と日本の地域構成 ◇第2章 日本の地域構成…11 ページ 第3編 日本のさまざまな地域 ◇第1章 地域調査の手法—京都市伏見区を例に—…20 ページ ◇第2章 日本の地域的特色と地域区分…25 ページ ◇第3章 日本の諸地域…100 ページ ◇第4章 地域の在り方—京都市を例に—…11 ページ
【第1編】(第1章と第2章の導入) ◇「世界と日本の地域構成」のページを設け、オランダのアムステルダムスキポール国際空港と兵庫県明石市の日本の標準時を示す時計塔および日本標準時線が通過する駅のホームの写真を上げている。	【第1部】 無 ※ 第1章・第2章ともに、最初のページに「単元の問い」のみ表記されている。	【第1編】(第1章と第2章の導入) ◇「世界と日本の諸地域」のページを設け、宇宙から見た大陸と海洋、および日本の領土(海・島々)、関東地方を示した写真を上げている。

教科・種目名 社会(地理的分野) 調査研究事項
別表1

調査項目		2 東書
全体の構成	単元の導入	【第2編】 <第1章> ◇「世界各地の人々の生活と環境」のページを設け、宗教・文化に関する 3 枚の写真(韓国:伝統的な衣装を身に着けた家族、サウジアラビアの食事の様子、中国:古い建物が残る路地)を取り上げている。 ◇「導入の活動」として、「世界の人々の生活を探ろう」のページを設け、3 つの住居の写真を取り上げている。 <第2章> ◇「世界の諸地域」のページを設け、多文化社会、世界遺産、国際協力に関する 3 枚の写真(アメリカ:リトルトーキョー、中国:万里の長城、キルギス:青年海外協力隊の活動)を取り上げている。 ※ 節ごとに、各州の地図・地域の特色を示した写真を取り上げている。 ◇「導入の活動」として、「SDGsから『地球的課題』を考えよう」のページを設け、アジア州、ヨーロッパ州、アフリカ州、北アメリカ州の風景写真を取り上げている。 【第3編】 <第1章> ◇「地域調査の手法」のページを設け、空から見た高知市の市街地の様子を取り上げている。また、地域調査の手順を7つに分けて明記している。

17 教出	46 帝国	116 日文
【第2編】 <第1章> ◇「世界のさまざまな地域」のページを設け、生活・宗教・言語に関する 9 枚の写真(イタリア:アルベロベッロの街並み、ニジェール:伝統的な衣装でらくだに乗る人々、南極:南極観光でゾウアザラシの子どもと触れ合う、ロシア:寒さで凍りつくタオル、インドネシア:バリ島の棚田、インドネシア、アフガニスタン、エジプトのイスラム教、奈良県奈良市の複数の言語で標示された看板)を取り上げている。 <第2章> ◇「世界の諸地域」のページを設け、食事の方法の違いを比較する4枚の写真(イギリス:フォークの使用、ケニア:スプーンの使用、インド:右手の使用、韓国:箸の使用)を取り上げている。 ※ 節ごとに、各州の地図・地域の特色を示した写真を取り上げている。 【第3編】 <第1章> ◇「地域調査の方法を学ぼう」のページを設け、愛知県名古屋市の市街地や庄内川付近の景色を示した 3 枚の写真を取り上げている。	【第2部】 <第1章> 無 ※ 最初のページに「単元の問い」のみ表記されている。 <第2章> ◇「序説 学ぶにあたって」のページを設け、州ごとに追究する主題と注目する地球的課題の組み合わせを明記している。 ※ 節ごとに、各州の地図・地域の特色を示した写真を取り上げている。 【第3部】 <第1章> 無 ※ 最初のページに「単元の問い」のみ表記されている。	【第2編】 <第1章> ◇「世界各地の人々の生活と環境」のページを設け、生活の様子を比較する 3 枚の写真(マレーシア:暑い地域の生活、カナダ:寒い地域の生活、モンゴル:乾燥した地域の生活)を取り上げている。 <第2章> ◇「世界の諸地域」のページを設け、州ごとに子どもたちの様子を示した6枚の写真(アジア州:韓国、ヨーロッパ州:フランス、アフリカ州:ケニア、北アメリカ州:アメリカ、南アメリカ州:ブラジル、オセアニア州:サモア)を取り上げている。 ◇州ごとに追究するテーマと注目する地球的課題の組み合わせを明記している。 ※ 節ごとに、各州の地図・地域の特色を示した写真を取り上げている。 【第3編】 <第1章> ◇「地域調査の手法―京都市伏見区を例に―」のページを設け、空から見た京都市伏見区とその周辺の様子を取り上げている。また、地域調査の手順を7つに分けて明記している。

教科・種目名 社会(地理的分野) 調査研究事項
別表1

調査項目		2 東書
全体の構成	単元の導入	<第2章> ◇「日本の地域的特色と地域区分」のページを設け、「導入の活動」として「日本がどのような国かイメージしよう」の設定をして、市街地・地形・工業地域・ニュータウンに関する4枚の写真を取り上げている。 <第3章> ◇「日本の諸地域」のページを設け、伝統的な産業・祭り・交通・特産物(すずりをつくる職人、新居浜太鼓祭り、船に積み込まれる自動車、パイナップルの収穫)を取り上げている。 ※ 節ごとに、各地方の都道府県・地域の特色を示した写真を取り上げている。 ◇「導入の活動」として、『日本の諸地域の』の学習の進め方」を設け、「日本の7 地方区分」と「地域の特色をとらえる視点」の組み合わせを明記している。 <第4章> ◇「地域の在り方」のページを設け、SDGsの視点から地域的な課題を考えさせる例として宮崎市を取り上げている。また、地域の在り方を追究する手順を6つに分けて明記している。

17 教出	46 帝国	116 日文
<第2章> ◇「日本の特色と地域区分」のページを設け、災害・工業に関する3枚の写真(高知県:高波、北海道:土砂崩れ、福岡県:金属加工)および日本からの定期就航便先を表した地図を取り上げている。 ◇「地域区分をしてみよう」第2章を始める前に」のページを設け、7つの主題図(都道府県別の人口区分、在留別外国人分布、工業生産額の分布、日本の気候区分、各地の雑煮に入れる餅の形の分布、JR の営業地域、地方ごとの季節予報を発表する時の気象庁の地域区分)を取り上げている。 <第3章> ◇「日本の諸地域」のページを設け、世界遺産、地形、祭りに関する4枚の写真(鹿児島県:縄文杉、高知県:四万十川にかかる沈下橋、岐阜県:合掌造りの集落、福島県相馬野馬祭り)を取り上げている。 ※ 節ごとに、各地方の都道府県・地域の特色を示した写真を取り上げている。 <第4章> ◇「地域のあり方」のページを設け、それまでの学習内容を振り返り、農村や都市の課題と地域のあり方について考えさせている。また、地域のあり方を追究するため、「とらえる」「調べる」「発信する」を明記している。	<第2章> 無 ※ 最初のページに「単元の問い」のみ表記されている。 <第3章> ◇「序説 学ぶにあたって」のページを設け、地方ごとに注目する視点と地域に見られる課題の組み合わせを明記している。 ※ 節ごとに、各州の地図・地域の特色を示した写真を取り上げている。 【第4部】(第1章の導入) ◇「序説 学ぶにあたって」のページを設け、「持続可能な社会」を考える視点として、「日本の諸地域」、「世界の諸地域」、「身近な地域の調査」、「地域の在り方」の関わりを示している。	<第2章> ◇「日本の地域的特色と地域区分」のページを設け、各地方の景色を示した7枚の写真(九州地方:沖縄県今帰仁村、中国・四国地方:広島県大崎上島、近畿地方:京都府宮津市、中部地方:長野県白馬村、関東地方:茨城県守谷市、東北地方:秋田県横手市、北海道地方:北海道七飯町)を取り上げている。 <第3章> ◇「日本の諸地域」のページを設け、各地の景色を示した3枚の写真(大分県:別府温泉、奈良県:吉野山の桜、東京都:都心のオフィス街)を取り上げている。 ◇ 地方ごとに追究するテーマと注目する社会的課題の組み合わせを明記している。 ※ 節ごとに、各地方の都道府県・地域の特色を示した写真を取り上げている。 <第4章> ◇「地域のあり方—京都市を例に—」のページを設け、京都市の特色をあらわす2枚の写真(桂川にかかる渡月橋、四条通を進む祇園祭の山鉾巡行)を取り上げている。また、地域のあり方を追究する手順を5つに分けて明記している。

教科・種目名 社会(地理的分野) 調査研究事項
別表1

調査項目		2 東書
全体の構成	1 時間の学習の流れ	◇導入資料を設け、学習内容に関連のある写真を取り上げている。 ◇小単元名の右に、学習内容の見通しを持つための「学習課題」を表記している。 ◇「スキルアップ」を設け、地理の学習を進める上での基礎的・基本的な技能を培うための活動を示している。 ◇「地理にアクセス」を設け、本文の学習内容を詳しく説明し、関連する内容をコラムとして取り上げている。 ◇「見方・考え方」を設け、地理的な見方・考え方を活用し、考察する視点を示している。 ◇「チェック」、「トライ」を設け、その時間に学習した内容を確認したり、さらに深めたりする課題を表記している。
	単元の学習内容の振り返り	◇第1編第1章、第2章、第2編第1章、第2章、第3編第2章、第3章では、「まとめの活動」を設け、単元を貫く「探究課題」を解決するための補助となる活動を示している。なお、第2編第2章の「世界の諸地域」、第3編第3章の「日本の諸地域」の「まとめの活動」に関しては、節ごとにそれぞれの地域をまとめる活動を設定している。 ◇第1編、第2編第1章、第2章、第3編第2章、第3章では、「基礎・基本のまとめ」を設け、編や章で学習した基礎的・基本的な知識や技能を確認する内容を示している。なお、第2編第2章の「世界の諸地域」、第3編第3章の「日本の諸地域」の「基礎・基本のまとめ」に関しては、節ごとにそれぞれの地域の学習内容を確認する内容を示している。

17 教出	46 帝国	116 日文
◇「LOOK！」を設け、学習のきっかけとなる資料を解説文とともに取り上げている。 ◇小単元名の下に、学習内容の見通しを持つための「学習課題」を表記している。 ◇「側注解説」を設け、1 時間の学習の中で知っておきたい用語の説明を取り上げている。 ◇「読み解こう」を設け、資料を読み取ったり、考えを深めたりする作業活動を取り上げている。 ◇「地理の窓」を設け、本文の学習内容を詳しく説明し、関連する内容をコラムとして取り上げている。 ◇「確認と表現」を設け、「確認」では、その時間で学習したことを振り返って確認し、「表現」では、学習してきたことを活用して、表現する課題を表記している。	◇見開き内容の入口となる資料と関係する問いかけを設けている。 ◇「学習課題」を設け、これからの学習でおさえるべき課題を表記している。 ◇「資料活用」を設け、資料に対する問いかけや作業活動、注目すべき点を取り上げている。 ◇コラムを設け、本文の学習内容を詳しく説明し、関連する内容を取り上げている。 ◇「解説」のコーナーを設け、わかりにくい用語説明を取り上げている。 ◇「確認しよう」を設け、本文の中から学習上大切な事項を書き出す作業を表記している。 ◇「説明しよう」を設け、学習した内容をふまえ、自分の言葉で説明する課題を表記している。	◇見開き内容の入口となる資料と関係する問いかけを設けている。 ◇「学習課題」を設け、これからの学習で何を学んでいくのかを表記している。 ◇「見方・考え方」を設け、学習課題の解決に向けての手がかりとなる視点を示している。 ◇「深めよう」を設け、学習課題の理解を深めるための見方・考え方を働かせる問いを示している。 ◇「地理＋α」を設け、本文の学習内容を詳しく説明し、関連する内容をコラムとして取り上げている。 ◇「確認」を設け、見開きの学習の理解を確かめる問いを表記している。
◇第2編第1章、第2章の州ごと、第3編第2章、第3章の地方ごとに「学習のまとめと表現」のページを設け、学習した内容について地図を使って確かめ、まとめを行っている。	◇第3部第1章、第4部以外のすべての章に「章の学習を振り返ろう」のページを設け、学習した内容の確認とまとめを行っている。 ◇第2部第2章と第3部第3章においては、節ごとに「節の学習を振り返ろう」のページを設けている。	◇第1編、第2編第1章、第2章、第3編第2章、第3章では、それぞれの単元を「ふりかえろう」のページを設け、学習した内容を整理し、確認を行っている。なお、第2編第2章の「世界の諸地域」、第3編第3章の「日本の諸地域」のに関しては、節ごとに「学習のまとめ」のページを設けている。

教科・種目名 社会(地理的分野) 調査研究事項
別表2

調査項目		2 東書
地球儀や地図の活用例のページ数		26 ページ (P14、P15、P16、P17、P18、P20、P21、P23、P30、P51、P63、P105、P144、P145、P146、P147、P149、P151、P152、P153、P165、P176、P177、P267、P279、P280) ＊地域調査の手法のまとめ、地域の在り方のまとめでの活用例、ハザードマップ、日本の地域区分での活用を含む。
地理的技能を身に付けさせるための記載		◇「スキル・アップ」で 32 項目記載 ◇「みんなでチャレンジ」で 3 項目記載(全 6 項目中) ◇関連ページに「集める」「読み取る」「まとめる」の活動項目を記載 ◇「地域調査の手法」「地域の在り方」の調査事例として記載 ◇5 つの章末、世界、日本の各地域学習のあとに「まとめの活動」を記載 【略地図】「スキル・アップ」の「世界の略地図のえがき方」「日本の略地図のえがき方」2 ページ
小学校での既習事項と関連付けたページの有無		有 ◇各章の導入のところに写真に「小」マーク、「小学校の社会で習ったことば」を記載
「世界の諸地域」の設定主題	アジア	◇急速な都市の成長と変化
	ヨーロッパ	◇国どうしの統合による変化
	アフリカ	◇国際的支援からの自立に向けて
	北アメリカ	◇多くの人々を引きつける地域
	南アメリカ	◇開発の進展と環境問題
	オセアニア	◇強まるアジアとの結び付き

17 教出	46 帝国	116 日文
25 ページ (P6、P7、P8、P11、P12、P13、P14、P15、P21、P27、P129、P130、P131、P132、P138、P139、P140、P141、P143、P145、P148、P149、P160、P161、P280) ＊地域調査の手法のまとめ、地域のあり方のまとめでの活用例、ハザードマップ、日本の地域区分での活用を含む。	23 ページ (P8、P9、P10、P11、P12、P14、P15、P17、P24、P46、P133、P134、P135、P136、P137、P138、P140、P152、P166、P167、P289、P292、P293) ＊地域調査の手法のまとめ、地域の在り方のまとめでの活用例、ハザードマップ、日本の地域区分での活用を含む。	20 ページ (P9、P10、P11、P12、P13、P15、P22、P41、P87、P120、P122、P123、P124、P125、P128、P132、P138、P139、P151、P269) ＊地域調査の手法のまとめ、地域のあり方のまとめでの活用例、ハザードマップ、日本の地域区分での活用を含む。
◇「地理にアプローチ」で 4 項目記載 ◇「地理の技」で 8 項目記載 ◇折り込みページ「地図を活用しよう」で 4 項目記載 ◇「地域調査の方法を学ぼう」「地域のあり方」の調査事例として記載 ◇2 つの章末、世界、日本の各地域学習のあとに「学習のまとめと表現」を記載 【略地図】「地理の技」の「世界の略地図を描いてみよう」「日本の略地図を描いてみよう」2 ページ	◇「技能をみがく」で 23 項目記載 ◇学習内容に関連した事例「地理にプラス」を 37 項目記載 ◇「身近な地域の踏査」「地域の在り方」で調査事例として記載 ◇4 つの章末、世界、日本の各地域学習の後に「学習を振り返ろう」を記載 【略地図】「技能をみがく」の「世界の略地図の描き方」「日本の略地図の描き方」2 ページ	◇「スキル UP」で 31 項目記載 ◇「チャレンジ地理」で 1 項目記載(全 4 項目中) ◇「地域調査の手法」「地域のあり方」で調査事例として記載 ◇5 つの章末に「ふりかえろう」、世界、日本の各地域学習のあとに「学習のまとめ」を記載 【略地図】「スキル UP」の「世界と日本の略地図のかき方」1 ページ
有 ◇巻頭の「小学校の社会科の学習を振り返ろう」「地理にアプローチ」で取り上げている。	有 ◇日本の各地域の学習の導入でイラスト地図を掲載し、小学校の学習内容を取り上げている。 ◇「小学校・歴史・公民との関連」を各ページ脚注部に項目で記載	有 ◇「連携コーナー」で関連ページ脚注部に 20 項目記載 ◇各章の導入のページに「小学校で学習した内容」を記載
◇多様な経済発展	◇急速な経済成長	◇人口や経済発展をテーマに
◇強まる結びつき	◇国どうしの結び付きの強まり	◇国境をこえた統合をテーマに
◇現状と課題の解決に向けた動き	◇特定の産物に頼る経済	◇自立のための開発と国際協力をテーマに
◇さまざまな産業が盛んな理由	◇巨大な産業	◇世界に影響をあたえる産業をテーマに
◇開発やそれにともなう生活の変化	◇農地や鉱山の開発	◇開発と環境保全をテーマに
◇他地域との関係	◇他地域との関係	◇多文化が共生する社会をテーマに

教科・種目名 社会(地理的分野) 調査研究事項
別表2

調査項目		2 東書
「日本の地域的特色と地域区分」の小単元名	自然環境	◇地形から見た日本の特色 ◇気候から見た日本の特色 ◇自然災害と防災・減災への取り組み
	人口	◇人口から見た日本の特色
	資源・エネルギーと産業	◇資源・エネルギーから見た日本の特色 ◇産業から見た日本の特色
	交通・通信	◇交通・通信から見た日本の特色
「日本の諸地域」の考察の仕方と事例地域(地方名)および単元名	自然環境	◇九州地方「自然とともに生きる人々の暮らし」 ◇北海道地方「雄大な自然とともに生きる人々の暮らし」
	人口や都市・村落	◇近畿地方「都市・農村の変化と人々の暮らし」
	産業	◇中部地方「活発な産業を支える人々の暮らし」
	交通や通信	◇中国・四国地方「交通・通信とともに変化する人々の暮らし」 ◇関東地方「さまざまな地域と結びつく人々の暮らし」
	その他	◇東北地方「伝統的な生活・文化を受けつぐ人々の暮らし」

17 教出	46 帝国	116 日文
◇変動する大地、安定した大地 ◇変化に富む日本列島の地形(1) ◇変化に富む日本列島の地形(2) ◇四季のある気候 ◇自然災害に向き合う ◇災害から身を守るために	◇山がちな日本の地形 ◇川がつくる地形と海岸や海洋の特色 ◇日本の気候 ◇日本のさまざまな自然災害 ◇自然災害に対する備え	◇地形からみた日本の地域的特色と地域区分 ◇気候からみた日本の地域的特色と地域区分 ◇地震・火山災害からみた日本の地域的特色と地域区分 ◇気象災害からみた日本の地域的特色と地域区分 ◇災害にそなえるために
◇変化する人口 ◇人口分布のかたよりがもたらす問題	◇日本の人口	◇人口からみた日本の地域的特色と地域区分
◇輸入に頼る資源・エネルギー ◇日本の産業活動と立地	◇日本の資源・エネルギーと電力 ◇日本の農業・林業・漁業とその変化 ◇日本の商業・サービス業	◇資源・エネルギーからみた日本の地域的特色と地域区分 ◇産業からみた日本の地域的特色と地域区分
◇交通・通信による結びつき	◇日本の交通網・通信網	◇交通・通信からみた日本の地域的特色と地域区分
◇九州地方「自然環境とその保全の視点から九州地方の特色を考えていこう」 ◇北海道地方「自然環境と関連する産業の視点から北海道地方の特色を考えていこう」	◇九州地方「自然環境に注目して」 ◇北海道地方「自然環境に注目して」	◇九州地方「自然環境をテーマに」 ◇北海道地方「自然環境をテーマに」
◇中国・四国地方「人口集中や人口減少の視点から中国・四国地方の特色を考えていこう」	◇関東地方「人口や都市・村落に注目して」	◇中国・四国地方「人口や都市・村落をテーマに」
◇中部地方「産業の視点から中部地方の特色を考えていこう」	◇中部地方「産業に注目して」	◇中部地方「産業をテーマに」
◇関東地方「交通・通信の視点から関東地方の特色を考えていこう」	◇中国・四国地方「交通や通信に注目して」	◇関東地方「交通・通信をテーマに」
◇近畿地方「歴史的な視点から近畿地方の特色を考えていこう」 ◇東北地方「伝統文化と地域の変化の視点から東北地方の特色を考えていこう」	◇近畿地方「環境保全に注目して」 ◇東北地方「生活・文化に注目して」	◇近畿地方「歴史的背景をテーマに」 ◇東北地方「持続可能な社会づくりをテーマに」

教科・種目名 社会(地理的分野) 調査研究事項
別表2

調査項目		2 東書
「日本の領域」の取扱い	領域を示した地図、図表、写真等の内容	◇「日本の領域と排他的経済水域」の地図と 4 島の写真、島名の記入欄を記載 ◇「領土、領海、領空の区分」の図表 ◇「主な国の領海・排他的経済水域と領土の面積」の図表 ◇「工事前と工事後の沖ノ鳥島」の写真および説明文を記載 「沖ノ鳥島は、北回帰線よりも南にある東西約 4.5km、南北約 1.7km、外周約 11km の環礁な中の無人島です。満潮時は大小二つほどの陸が海上に 1m ほど顔を出すだけになってしまいます。日本政府は、この島を波の浸食から守るために、約 300 億円かけて護岸工事を行いました。」 ◇「地理にアクセス 新しく広がった国土」というコラム欄で「激しく噴火する西之島新島と西之島」の写真および地図を掲載、火山活動でできた経緯と排他的経済水域への影響を説明している。

17 教出	46 帝国	116 日文
◇「日本の領土・領海と排他的経済水域」の地図と 4 島の写真、島名を記号で記入する欄を記載 ◇「領土・領海・領空の区分」の図表 ◇「国々の領土と排他的経済水域の面積」の図表 ◇「地理の窓 日本の最南端をめぐる問題」というコラム欄で、「工事前の東小島」の写真および説明文を記載 「沖ノ鳥島は、東小島と北小島からなる熱帯の無人島で、日本の最南端の北緯 20 度に位置しています。沖ノ鳥島は、満潮時に二つの島が海面上に出るだけなので、これらが水没すると日本の領土ではなくなってしまう。政府は消波ブロックとコンクリートでこれらを囲み、東小島の上部を金属製のふたでおおうなど大規模な護岸工事を続けてきました。沖ノ鳥島が領土として存在することにより、島の周囲の約 40 万km²の範囲が日本の排他的経済水域として維持されています。」 ◇「面積が拡大した西之島」の写真を掲載、火山活動でできた経緯を説明している。	◇「日本の東西南北の端と排他的経済水域の範囲」の地図と 4 島の写真、島名の記入欄を記載 ◇「領土・領海・領空の模式図」 ◇「主な国の排他的経済水域の面積」の図表 ◇「地理にプラス 護岸工事によって守られた沖ノ鳥島」というコラム欄で「波の浸食から守るための護岸工事が施された現在の沖ノ鳥島」の写真および説明文を記載 「沖ノ鳥島は、東京から南へ約 1700km 離れた無人島で日本の最も南にあるサンゴ礁の島です。満潮時には、北小島と東小島が海面上に出るだけです。もしこれらの島が波の浸食などにより水没すると領土と認められなくなり、日本は国土面積より広い 40 万km²以上の排他的経済水域を失うことになります。そのため、島の周りを消波ブロックやコンクリートで保護し、上部を金網で覆うなどして、島の保全が進められてきました。島のそばには観測施設も設置され、国が直接、島の維持管理を行っています。」 ◇「活発な噴火を続ける西之島」の写真を掲載、火山活動でできた経緯、排他的経済への影響を説明している。 ◇「渥美半島沖の海底から天然ガスを採取する船」の写真を掲載、海底資源開発について触れている。	◇「日本の排他的経済水域」の地図と 4 島の写真、島名の記入欄を記載 ◇「領土・領海・領空・排他的経済水域の範囲」の図表 ◇「主な国の領土・領海・排他的経済水域を合わせた面積」の図表 ◇「地理に＋α 沖の鳥島を守るために」のコラム欄で「護岸工事で保護された沖ノ鳥島」の写真および説明文を記載 「沖ノ鳥島は、満潮時には二つの小さな島だけが沈まないさんご礁です。この島がなくなると、周辺の約 40 万km²の排他的経済水域が失われてしまいます。そこで、国が波の浸食から島を守るための護岸工事を行いました。現在も沖ノ鳥島は、国が維持管理をしています。」

教科・種目名 社会(地理的分野) 調査研究事項
別表2

調査項目		2 東書
「日本の領域」の取扱い	「北方領土」に関する記載のある単元、内容	◇単元「日本の姿」 ◇内容「北海道東方の歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島は北方領土とよばれ、根室市などに属する日本固有の領土です。しかし、現在はロシアが不法に占拠しており、日本は抗議を続けています。北方領土は、カムチャッカ半島から北海道まで連なる島々の南に位置しており、北海道東部の納沙布岬と、歯舞群島の西端の貝殻島とは、約4kmしか離れていません。」と記載したあと、島の地形、自然環境、漁業資源について説明している。(P27) ◇「竹島、尖閣諸島、北方領土の位置」の地図 ◇「北方領土周辺の地形」の地図、「歯舞群島がのる20万分の1の地勢図」を記載 ◇「北海道の根室半島上空から見た歯舞群島」「自然環境にめぐまれた択捉島」の写真

17 教出	46 帝国	116 日文
◇単元「日本の地域構成」 ◇内容「北海道の東に位置する歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島を北方領土とよびます。北方領土は1945年の第二次世界大戦の終結後にソ連に占領されました。終戦時には北方領土には約17000人の日本人が生活していましたが、強制退去させられました。北方領土はソ連の解体後も現在に至るまでロシア連邦によって不法に占拠されています。日本政府は、ロシア連邦政府に対し、日本固有の領土である北方領土の返還を求めています。が、いまだに実現していません。一方で、1992年に始まった北方領土へビザなし交流など民間での友好的な結びつきは続いています。」この文の前に周辺の地形や国境線の説明文を記載(P24) ◇「北方領土とその周辺」の地図 ◇「北方領土に関する主なできごと」の年表 ◇「ビザなし交流で根室港に到着したロシア側の訪問団」の写真	◇単元「日本の姿」 ◇内容「北海道の北東部にある歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島は、北方領土とよばれ、北海道根室市などに属する日本固有の領土です。1855年に、日本とロシアの国境を択捉島と得撫島の間で確認してから、北方領土をほかの国の領土とする条約が結ばれたことはありません。北方領土の近海は水産資源が豊かで、かつて多くの日本人がこれらの島に住んでいました。しかし、北方領土は1945年に、日本との条約を無視して一方的に侵攻してきたソビエト連邦に占拠され、日本は立ちのかされました。ソビエト連邦はサンフランシスコ平和条約に署名せず、現在までロシアが不法に占拠した状態となっています。日本は、北方領土の返還に向けてロシアと平和条約を結ぶため、交渉を続けています。」 ◇「北方領土周辺の国境の移り変わり」の4枚の地図 ◇「納沙布岬から見える北方領土の島々」「日本国民と北方領土に住むロシア人との交流」の写真	◇単元「日本の地域構成」 ◇内容「北方領土は、歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島からなる日本固有の領土です。面積は合計約5000km²もあり、福岡県や千葉県とほぼ同じ広さです。日本は18世紀ごろから本格的な開発を始め、1855年の日露通交条約で、日本の領土であることが確認されました。周辺の海域は、こんぶやかになどの水産資源が豊富で、かつては多くの日本人が漁業をしながら生活していました。しかし、1945年の第二次世界大戦後にソ連に占領され、ソ連解体後もロシアが不法に占拠しています。ソ連に占領されるときに、当時住んでいた日本人はふるさとを追われ、現在、北方領土に日本人は住んでいません。日本は、北方領土の返還をロシアに強く要求していますが、いまだに実現していません。」「現在、北方領土では、領土問題の解決に向けて、元島民を含む日本人と北方領土に住むロシア人が相互訪問するなど、交流を深めています。」 ◇「北方領土・竹島・尖閣諸島の位置」の地図 ◇「北方領土付近の国境の変化」の4枚の地図 ◇「羅臼町から見た国後島」「ビザなし交流で色丹島の一般家庭をおとずれ、ロシア人と交流する訪問団」の写真

教科・種目名 社会(地理的分野) 調査研究事項
別表2

調査項目		2 東書
「日本の領域」の取扱い	「竹島」に関する記載のある単元、内容	◇単元「日本の姿」 ◇内容「竹島は、島根県隠岐町の島町に属し、隠岐諸島の北西、約 150km に位置する日本固有の領土です。しかし、韓国が不法に占拠しているため、日本は抗議を続けています。」と記載したあと、島の地形、漁業資源について説明している。(P26) ◇「竹島の 2 万 5000 分の 1 の地形図」の記載 ◇「竹島」の写真
	「尖閣諸島」に関する記載のある単元、内容	◇単元「日本の姿」 ◇内容「尖閣諸島は、沖縄県石垣市に属する日本固有の領土で、中心である魚釣島は、石垣島の北、約 170km に位置します。日本が実効支配をしているため、領土問題はありますが、中国や台湾が領有権を主張しています。」と記載したあと、島の地形、自然環境、資源について説明している。(P27) ◇「久場島の 5 万分の 1 地形図」の記載 ◇「尖閣諸島の南小島、北小島、魚釣島」「尖閣諸島の久場島」の写真

17 教出	46 帝国	116 日文
◇単元「日本の地域構成」 ◇内容「竹島周辺では、江戸時代初めから日本人が漁業を行ってきました。1905 年に政府は、竹島を国際法に基づき島根県に編入し、日本固有の領土としました。1952 年以降、韓国が竹島を自国の領土として主張し、現在まで不法に占拠し続けています。日本はこれに抗議を重ねるとともに、国際社会の場での話し合いを提案していますが、韓国は受け入れていません。」 ◇「南東を上にして、日本海周辺を描いた地図」を記載 ◇「竹島」の写真	◇単元「日本の姿」 ◇内容「日本海にある竹島は、島根県隠岐の島町に属する日本固有の領土です。17 世紀には現在の鳥取県の人々が漁を行っており、1905 年に明治政府が島根県への編入を内閣で定めて、自国の領土とする考えを公式に示しました。しかし、サンフランスコ平和条約で竹島に対する主張を退けられた韓国は、1952 年に海洋への権利を唱えて一方的に公海の上に境界線を引き、竹島に海洋警察隊や灯台を置いて、不法に占拠しいています。日本はこれに抗議し国際司法裁判所での話し合いをたびたび呼びかけていますが、韓国が応じていません。」 ◇「竹島の位置」の地図 ◇「竹島」の写真 ◇「地理プラス 漁業が盛んだった昔の竹島」というコラム欄で「隠岐の人々が行っていた竹島での漁の様子」の写真および説明文を記載	◇単元「日本の地域構成」 ◇内容「竹島は、本州から約 200km はなれた日本海にある日本固有の領土です。竹島周辺は豊かな漁場で、17 世紀初めには日本人が漁場などに利用していました。1905 年には国際法に従って島根県に編入されました。ところが 1952 年から、韓国が、一方的に自国の領土であると主張して竹島を取り込み、警備隊員を常駐させたり、施設を作ったりして、不法に占拠しています。日本は、韓国に対して何度も厳重に抗議しています。」「竹島については、この問題を国際司法裁判所で取り上げるように韓国に提案していますが、韓国は拒否しています。」 ◇「竹島」「竹島に関する資料を展示する出張竹島展」の写真
◇単元「日本の地域構成」 ◇内容「尖閣諸島は、1895 年に沖縄県に編入された日本固有の領土です。第二次世界大戦後には、アメリカ合衆国の施政の下に置かれていましたが、1971 年に沖縄返還協定が結ばれ、翌年日本に復帰しました。アメリカ合衆国の施政の下にあった期間を除いて日本が領有し、有効に支配を続けてきました。しかし、1970 年代から、周辺海域に埋蔵されているとされる資源をめぐり、中国が領有を主張し始めました。近年、中国船が尖閣諸島周辺の日本の領海や接続水域にたびたび侵入する事態が生じ、2012 年、日本は島々の大半を国有化しました。」この文の前にアメリカからの返還の経緯の説明文を記載 ◇「尖閣諸島」の写真	◇単元「日本の姿」 ◇内容「東シナ海にある尖閣諸島は、沖縄県石垣市に属する日本固有の領土です。明治政府が、ほかの国の支配が及んでいないことを慎重に確認したうえで 1895 年に沖縄県への編入を内閣で定めて、自国の領土とする考えを公式に示しました。その後、一時は島で 200 人以上が暮らし、かつおぶし工場も造られました。サンフランシスコ平和条約でも、南西諸島の一部として日本の領土とされました。尖閣諸島をほかの領土とする条約が結ばれたことはなく、日本政府による管理も及んでいるため、ほかの国との間で解決すべき領有をめぐる問題ははありません。尖閣諸島では、1960 年代には、石油などの資源が周辺の海底にある可能性が注目され、1970 年代に入ると、中国などが領有権を主張するようになりました。その後、日本は 2012 年に、尖閣諸島を維持、管理するために、その大半を国有化しました。」 ◇「尖閣諸島の位置」の地図 ◇「尖閣諸島」の写真	◇単元「日本の地域区分」 ◇「尖閣諸島は、石垣島から約 170km はなれた東シナ海にあります。1895 年に日本が自国の領土であることを宣言して、沖縄県に編入しました。また、サンフランシスコ平和条約でも日本固有の領土であることを宣言して、沖縄県に編入しました。また、サンフランシスコ平和条約でも日本の領土とされ、このことに周辺の国々からの反対はありませんでした。その後も、日本固有の領土として管理されてきており、尖閣諸島には領土問題は存在していません。ところが、東シナ海に石油が埋蔵されている可能性が指摘され、1970 年代になって、中国が尖閣諸島の領有権を主張するようになりました。最近では、中国の船が日本の領海にたびたび侵入してくるため、日本は、中国に厳重に抗議し、領土の保全に取り組んでいます。」 ◇「尖閣諸島」「尖閣諸島の日本の領海に侵入する中国の船」の写真

教科・種目名 社会(地理的分野) 調査研究事項

別表3

調査項目		2 東書
言語活動を充実させるための工夫		◇見開きごとに「チェック&トライ」を設けている。 ◇グループで協力しながら取り組む、対話的な活動のコーナーとして「みんなでチャレンジ」を設けている。
地理的事象を多面的、多角的に捉えるための工夫		◇コラム「地理にアクセス」を設けている。 ◇各節の最後に「もっと地理」のコーナーを設けている。
調査の仕方の内容	「世界の様々な地域の調査」(事例地域)	◇なし
	「身近な地域の調査」(事例地域)	◇「地域調査の手法」(高知市) ◇「地域の在り方」(宮崎市)
	社会参画の視点に関わる記述	◇「自然災害と防災・減災への取り組み」P164 ◇巻頭「持続可能な社会の実現に向けて」
調査のまとめ方の例示	「世界の様々な地域の調査」	◇各節のまとめの活動として「〇〇州の学習をまとめよう」を設けている。
	「身近な地域の調査」	◇地域調査の手法 1 調査の準備、地形図の読み取り方 2 野外観察、聞き取り調査 3 資料を使った調査 4 調査のまとめ 5 調査結果の発表
表現活動の充実への工夫		◇地域調査の手法の項で、メモの作り方、まとめ方、整理の仕方、分かりやすい発表の手順等について例示している。
新聞を活用している単元とその内容		◇なし

17 教出	46 帝国	116 日文
◇見開きごとに「確認と表現」を設けている。 ◇思考・判断・表現する力を育むコーナーとして「読み解こう」を設けている。	◇見開きの下段に、「確認しよう」と「説明しよう」を設けている。	◇見開きごとに「深めよう」「確認」を設けている。 ◇調べたり議論したりすることで理解を深めるコーナー「チャレンジ地理」を設けている。 ◇主体的・対話的な問いや活動、シンキングツールを示すコーナー「アクティビティ」を設けている。
◇コラム「地理の窓」を設けている。 ◇ウェブサイトで情報が閲覧できるよう「まなびリンク」の記載がある。	◇コラム「未来に向けて」を設けている。 ◇各節の最後に「節の学習を振り返ろう」のコーナーを設けている。	◇コラム「地理+ α」を設けている。 ◇デジタルマークから関連ウェブページにリンクしている。
◇なし	◇なし	◇なし
◇「地域調査の手法を学ぼう」(名古屋市) ◇「地域のあり方」(多摩ニュータウン)	◇「身近な地域の調査」(東京都練馬区) ◇「地域の在り方」(京都市)	◇「地域調査の手法」(京都市伏見区) ◇「地域のあり方」(京都市)
◇「災害から身を守るために」P160 ◇巻頭「地球的課題とSDGs」	◇「自然災害に対する備え」P 150 ◇巻頭「地域のよりよい発展を目指して」	◇「災害にそなえるために」P 148 ◇SDGs に関わる記述 P 262
◇各節のまとめの活動として「学習のまとめと表現」を設けている。	◇各節のまとめの活動として「節の学習を振り返ろう」を設けている。	◇各州の学習のまとめの活動として「学習のまとめ」を設けている。
◇地域調査の手法を学ぼう 1 調査の計画を立てる 2 地形図を使って調べる 3 地域の防災について調べる 4 調査の結果をまとめる 5 他の地域と比べる	◇身近な地域の調査 1 調査テーマを決めよう 2 調査方法を考えよう、地形図の使い方 3 野外調査を実行しよう 4 調査を深めて結果を発表しよう	◇地域調査の手法 1 身近な地域を見直そう ・地図を活用する 2 調査テーマを決めて調査計画を立てよう 3 調査を進めよう 4 考察してまとめ、発表しよう
◇「地域に向けて発信する」の項で、課題解決に向けた提案用ポスターを例示している。	◇「身近な地域の調査」の項で、グループの調査例として例示している。	◇「地域調査の手法」の項で、調査結果のまとめ方として例示している。
◇なし	◇なし	◇なし

教科・種目名 社会(地理的分野) 調査研究事項

別表4

調査項目	2 東書
教科書の使い方(学習の進め方)に関する記載	◇巻頭「この教科書の使い方と学び方」で、編・章の構成と学び方、本文ページの構成と学び方等について解説している。
自主学習、自由研究用に設定されている課題の数と内容	◇「資料から発見」6 項目 ◇「もっと地理」15 項目 ◇「地理にアクセス」42 項目
資料の収集・活用・整理の仕方など調べ学習の方法についての記載	◇第3編第1章「地域調査の手法」、第4章「地域の在り方」に記載がある。 ◇「スキル・アップ」32 項目 ◇「資料から発見！」6 項目
作業的・体験的な学習活動例、書き込みページの有無	◇「みんなでチャレンジ」6 項目 ◇思考を整理する多様なツールの提示 6 項目
掲載されているコラムの内容	◇「地理にアクセス」42 項目 ◇「インタビューコラム」19 項目
取り上げられている京都府の地理的事象	◇「近畿地方」より、近畿地方の地形、都市の開発と歴史的町並み、農産物の価値を高める取り組み

別表5

調査項目	2 東書
「発展」などの記載のある項目数と内容	◇なし

17 教出	46 帝国	116 日文
◇巻頭「教科書の使い方」で、本文ページの見方・使い方、表記の説明等について解説している。	◇巻頭「この教科書の学習のしかた」で、学習の見通し・振り返りの流れ、本文ページの学習のしかた等について解説している。	◇巻頭「教科書の構成と使い方」で、教科書全体の学習の流れ、教科書の基本構成等について解説している。
◇「学習のまとめと表現」15 項目 ◇折込み「地図を活用しよう」4 項目 ◇「地理の窓」51 項目	◇「解説」52 項目 ◇SDGs の事例紹介「地域の在り方を考える」7 項目	◇「自由研究」13 項目 ◇「地理＋α」16 項目
◇第3編第1章「地域調査の方法を学ぼう」、第4章「地域のあり方」に記載がある。 ◇「地理の技」8 項目	◇第3部第1章「身近な地域の調査」、第4部第1章「地域の在り方」に記載がある。 ◇「技能をみがく」23 項目	◇第3編第1章「地域調査の手法」、第4章「地域のあり方」に記載がある。 ◇「スキルUP」31 項目
◇「学習のまとめと表現」15 項目	◇「節の学習を振り返ろう」13 項目	◇「学習のまとめ」13 項目 ◇「チャレンジ地理」4 項目
◇「地理の窓」51 項目 ◇「地域から世界を考えよう」6 項目 ◇「現代日本の課題を考えよう」7 項目	◇「未来に向けて」25 項目 ◇「声」18 項目 ◇「地理＋」37 項目	◇「地理＋α」16 項目 ◇「声コーナー」11 項目
◇「近畿地方」より、歴史に育まれた地域、京都の町並みと伝統文化、	◇「近畿地方」より、古都京都・奈良と歴史的景観の保全 ◇「地域のあり方」(京都市)	◇「近畿地方」より、現在にいきづく歴史的都市の特色 ◇「地域調査の手法」(京都市伏見区) ◇「地域のあり方」(京都市)

17 教出	46 帝国	116 日文
◇なし	◇なし	◇なし

教科・種目名 社会(地理的分野) 調査研究事項
別表6

調査項目	2 東書
歴史的分野と関連のある内容	◇他分野と共通で掲載している資料や特設ページには分野関連マークや関連ページに直接リンクする二次元コードがあり、歴史的分野を意識した多面的・多角的な学習が展開できるように工夫されている。
公民的分野と関連のある内容	◇他分野と共通で掲載している資料や特設ページには分野関連マークや関連ページに直接リンクする二次元コードがあり、公民的分野を意識した多面的・多角的な学習が展開できるように工夫されている。
特別の教科 道徳と関連のある内容	◇震災から命を守るで、道徳との関連を明示している他、持続可能な社会の実現に向けた視点から扱われている。
人権教育、福祉教育、キャリア教育、環境教育と関連のある内容	◇人権教育について、イスラム教と人々の暮らしや、アイヌ民族の文化の歴史的背景などを取り上げている。 ◇環境教育について、環境破壊の事例や地球環境問題、様々な発電方法の特徴や課題を地理上げる多様な教材を記載している。
男女共同参画社会の追究に対する配慮	◇人権尊重や主体的に社会の形成に参画する意識などの観点から適切に扱われている。

17 教出	46 帝国	116 日文
◇地域の歴史に関する記述や資料が多く取り上げられ、世界や日本の各地の特色について歴史的な歩みと背景と関わらせてとらえられるように構成されるなど歴史的分野との関連が図られている。	◇世界・日本の諸地域学習において、各地域の文化や産業についての歴史的経緯が接触的に記載され、歴史的分野との接続が図られている。 ◇ページ下段には「小学校・歴史・公民との関連」コーナーが設けられ、歴史的分野との接続ができるよう、関連用語が提示されている。	◇連携コーナーを随所に設け、地理的事象の歴史的背景を、歴史的分野との学習配列にも配慮しながら確認できるようにになっている。
◇地域調査の手法に学ぼう、地域のあり方には、発表会に地域の方々を招いて意見を提案しようとしたりするなど、地域社会への参画意識が高められる学習が設定されていて公民的分野の学習への橋渡しが図られるように構成されている。	◇「防災」「環境」「共生」といった、現在および将来の社会が直面する課題を取り上げたコラム「未来に向けて」が 25 テーマ設置され、公民的分野への接続が考慮されている。 ◇ページ下段には「小学校・歴史・公民との関連」コーナーが設けられ、公民的分野との接続ができるよう、関連用語が提示されている。	◇連携コーナーを随所に設け、現代社会の諸課題等について、公民的分野の学習につなげていけるようになっている。
◇ボランティアを含めた公共的な活動や政策に取り組む人々の様子を取り上げ、活動の内容や人々の思いに触れる学習を通して、社会形成への参画意識を高めるように配慮されている。	◇さまざまな立場や考え方があることを認識し、多様な価値観や文化に対する理解と寛容な態度を育むことができるように配慮されている。	◇教科書全体が個人の尊重の考え方を基本理念として構成されている。 ◇地域調査の手法や地域のあり方の学習を通じて社会参画への関心や意欲を養っている。
◇人権教育・福祉教育について、「アフリカの歩みと課題」、「日系移民の歴史つながり」、「白豪主義から多文化主義へ」、「多文化共生を考える」 ◇環境教育について、「地理の学習をはじめるにあたって」で地球的課題とSDGsを掲載して世界地誌学習において各州が取り上げる地球的課題を示すことで、今後の学習に対して興味・関心を高める工夫がみられる。	◇コラム「未来に向けて共生」が 9 ヶ所設けられており、多様な価値観や文化の共生をはかる人々の姿が紹介されている。 ◇コラム「未来に向けて環境」が 7 か所設けられていて、環境保全に取り組んでいる人々の姿が紹介されている。	◇人権 ◇環境問題や環境保全を地球的課題として取り上げている。日本における環境問題や環境保全を地域の課題(社会的課題)として取り上げている。
◇人権尊重や主体的に社会の形成に参画する意識などの観点から適切に扱われている。	◇人権尊重や主体的に社会の形成に参画する意識などの観点から適切に扱われている。	◇人権尊重や主体的に社会の形成に参画する意識などの観点から適切に扱われている。

教科・種目名 社会(地理的分野) 調査研究事項
別表7

調査項目	2 東書
ユニバーサルデザイン化に向けた工夫(文字の書体、大きさ、図表等の色遣い、装丁方法等)	◇AB 判 ◇ユニバーサルデザインフォントが採用されている。 ◇針金とじの製本で、造本は堅牢で長期間の使用にも耐えうる。 ◇3.1%の軽量化が図られている。 ◇フラットデザインを採用している。
写真の掲載方法等の配慮事項	◇世界の各州の導入部分に自然や生活に関する写真を掲載し、日本の各地方の導入部分には各地方の「探究課題」に関連した写真を掲載することで、生徒が学習する地域のイメージを持てるように工夫されている。
グラフの掲載方法等の配慮事項	◇グラフの範囲には着色をして、グラフの範囲がわかりやすくなっている。 ◇技能の習得のために適宜「集める」「読み取る」「まとめる」のコーナーが設定されている。
統計資料の掲載方法等の配慮事項	◇巻末に各国別・各都道府県別の統計資料計 6 ページ
注記の特色	無
索引(地名、重要語句等)の数とページ数	◇事項さくいん 336 地名さくいん 497 計 4 ページ
用語解説の数と掲載方法等の配慮事項	◇70 項目 ◇巻末に項目ごとに記載されており、基礎・基本を確実に理解できるように配慮されている。

17 教出	46 帝国	116 日文
◇AB 判 ◇ユニバーサルデザインフォント、カラーユニバーサルデザインに基づく紙面づくりがなされ、第三者機関の CUDO の認証も受けている。	◇幅広の判型の AB 判が採用されている。 ◇ユニバーサルデザインフォントが採用されている ◇カラーユニバーサルデザインの配慮が行われている。	◇ワイドな AB 判が採用されている。 ◇ユニバーサルデザインフォントを使用している。 ◇カラーユニバーサルデザインの配慮が行われている。 ◇良質で軽い紙を使用して重量をおさえる工夫をしている。 ◇堅牢なあじろ綴じを採用しており、針金綴じよりも大きく開き、かつ閉じにくい本になっている。
◇文字や図版などの資料の印刷は鮮明で色彩もビジュアル性が高い。特に写真の発色がきれいである。	◇写真や地図・グラフなどが大きく見やすく提示されている。 ◇写真や図版、本文が密接に関連することで、地理的事象の背景や因果関係を読み取ることができ、「地理的な見方・考え方」が自然に働かせられるように配慮されている。 ◇章(節)を振り返ろうで地図や写真、表などのさまざまなツールを用いて、地理的な見方・考え方を働かせられるように工夫されている。	◇世界の各州の導入部分や日本の各地方の納入部分に自然や生活に関する写真を掲載し、興味・関心を高められるようにしている。
◇「地理の技」を設け、地図やグラフなどの扱い方を学習するコーナーを掲載している。	◇グラフの読み取り方や、主題図の読み取り方を、種類別に説明している。 ◇色数の多いグラフや地図には模様や線種・記号などが使用され色以外での区別ができるように配慮されている。	◇スキルアップのコーナーを設け、グラフ等の活用の仕方について説明している。 ◇資料活用のために適宜グラフの下に課題が設定されている。
◇世界の国々のあらし・日本の都道府県のあらしが統計資料として掲載されている。	◇巻末に統計資料のページは設定されていない。	◇巻末に各国・各県別の統計資料計 5 ページ
無	無	無
◇さくいん 537 計 4 ページ	◇地名さくいん 381 事項さくいん 450 計 4 ページ	◇事項さくいん 375 地名さくいん 214 計 4 ページ
◇95 項目 ◇巻末に学習資料として掲載されていて生徒の地理的認識を高めるように配慮されている。	◇52 項目 ◇教科書本文のページの測注欄に掲載されており、ページ間を移動する手間が省け、生徒の集中力が切れないように配慮されている。	◇56 項目 ◇巻末に地理的用語を6種類に区分してわかりやすく解説し、その用語が重要語句になっているページを参照できるように工夫している。